

名古屋から羽ばたけ！ 頼もしい中高生ボランティア

— 『名古屋高校生国際ボランティア団体 どえりゃあwings』 —

「高校生にしかできないこともある」そんな思いをもつ名古屋市周辺の中高生で構成される国際ボランティア団体「どえりゃあwings」。運営委員の皆さんにお話をうかがいました。

始まりはタイ山岳民族との出会い

団体の設立者であり、前代表の吉野裕斗さんが活動を始めたきっかけは、タイの山岳民族の村でのホームステイ中、自宅に眠っていた文房具を渡した時の子どもたちのうれしそうな姿だ。その笑顔が忘れられず、帰国後も支援を続けたいという思いで、2013年11月に団体を立ち上げた。最初の活動は、タイ山岳民族の子どもたちに修学旅行をプレゼントするための募金活動だ。自分の村から出たことがない子どもたちに視野を広げてもらいたいということで、タイ都市部への修学旅行を思いついた。集まった募金を現地に送り、どえりゃあwingsからもメンバー1人が引率として参加し、修学旅行が実現した。その活動を皮切りに、リコーダーを回収し途上国に送るプロジェクト、募金で集めたお金で東北のお菓子を購入し、それを途上国の子どもたちに送るプロジェクトなど、さまざまな活動を展開している。

運営は中高生のみで

現在、メンバーは36名、17校から集まっている。名古屋市内の活動が多いので、メンバーも名古屋市内の中高生が中心だが、豊田市在住の高校生もいるそうだ。大多数は部活動にも所属しながら、それぞれのペースで活動している。イベントなどでメンバー募集をしているが、ホームページやフェイスブックからの

問い合わせも多いそうだ。興味はあるけど、行動に移せていない高校生も多く、どの学校の生徒でも参加することに魅力を感じる中高生も多いようだ。

8名の運営委員が、それぞれの得意なことを生かし、広報、会計、デザインなど役割を分担し、団体の運営にあたっている。「団体が発展し続けていくために、代表や運営委員は1年交代」という方針があり、2014年11月から2代目に入った。現代表の下郷遥さんは、「協力団体とのつながりを強くする、1つひとつの活動の質をあげるなど、団体の基盤をしっかりと築いて、次に渡したい」と話す。また、書記の今村ちひろさんも、「ここでの活動やたくさんの人との出会いを通じて得たいいろいろな知識を、今度は自分が新しいメンバーに伝えたい」と、後継の育成にも力を入れる。

現在の活動

今、活動の中心となっているのはフェアトレードの普及活動だ。イベントなどでの普及活動はもちろん、オリジナルのフェアトレード商品を作る「コラボ企画」も実現した。日進市にあるAoyagi Coffee Factoryの協力でオリジナルコーヒーが完成し、現在、販売に協力してくれるお店を開拓中だ。フェアトレード名古屋ネットワークの会議でAoyagi Coffee Factoryの方と知り合い、「コーヒーと一緒に作りませんか」と声をかけ、コラボが実現したそうだ。また、今年3月に名古屋

市議会で「フェアトレードの理念の支持に関する決議案」が可決され、名古屋市がフェアトレードタウンに一歩近づいたことを記念して、商品を作ろうという企画があり、それにも参加するそうだ。フィリピンの生産者が作っている商品にアレンジを加えて商品化する予定で、もうすぐ本格的に始動する。

それから、間もなく実現する企画がもうひとつ。特定非営利活動法人 アイキャンがフィリピンのサンマテオ市に建設中の「子どもの家」という施設に、どえりゃあwingsの集めた募金でシャワールームを2つ作るというものだ。さらに、子どもたちが孤児院で楽しく過ごせるようにカルタの制作や、日本の絵本に現地語訳のシールをつけて送る準備もしている。既に目標額33万円を超える募金が集まり、アイキャンと相談しながら、現地に届ける準備をしているそうだ。こうした企画を考えるのも、協力団体を探し、交渉するのも、全てメンバー自身。副代表・榊原瑞生さんは「高校生だからこそできることもあるということを示したい。高校生だからと言って甘えることなく、社会人と同じ立場に立って営業や交渉をしていくのが団体のウリなので、先頭に立ってやっていきたい」と、力強く話してくれた。

メンバーの思いを実現する場

国際協力について何も知らなかったから、団体に入った頃は大変だったという副代表・榊原さんは「高校生目線で国際協力について考えることは、すごく大切。お金だけ出せばいいというような日本の国際協力の悪い流れもみんなに知ってほしいし、それを高校生の立場から変えていきたい」と話す。また、広報の平野功一郎さんは、「先進国といわれる国に生まれたからには、自分にできることを見つけて、しっかりやっていかなければいけないと思う」と言い、運営委員の永田健人さんも「中学の授業でガーナの

カカオ豆農場で働く子どもがいるという話を聞き、驚いた。その時は行動に移すのは難しかったけど、高校に入り、この団体で自分から行動している人に出会った。自分もそうなりたと思って活動している」と、それぞれが「国際協力」に関して自分なりの考えを持ち、今自分にできることを実践している。

これから取り組んでみたいことについて聞いてみると、外相の森本珠莉さんは「名古屋市長を呼べるような大きなイベントをやりたい。そこでまた新たなつながりが作れるといいなあ」と教えてくれた。また、代表の下郷さんは、「フェアトレードの啓発活動のように国内でできる活動は、みんなに身近に感じてもらえていいことだが、海外と直接つながっている感じがあまりしない。もっと相手の顔が見えるようなつながり方ができるといいなあ」と目標を語ってくれた。取材の日に行われていた運営会議でも、新たな企画のアイデアについて活発に話し合われていた。中高生の柔軟なアイデアと素晴らしい企画力・行動力で、ますます活動の幅を広げそうだ。



メンバーみんなが集まる「大会議」



運営委員の皆さん
(前列左から今村さん、下郷さん、森本さん、
後列左から永田さん、平野さん、榊原さん)



ドリップバッグコーヒー(ブレンド、東ティモール) 130円
このパッケージのデザインも高校生が考えました!



スーパー店頭でのフェアトレード啓発活動



フィリピン支援のための募金活動

コラボコーヒーはイベント等で販売するほか、メールでの注文も受け付けています。
(メールでの注文は送料着払い、5個単位でお願い致します)

Information

どえりゃあwings
E-mail: doeryawings2013@yahoo.co.jp
HP: <http://doeryawings2013.wix.com/doeryawings>
facebook: <https://www.facebook.com/doeryawings>